学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽Ⅰ（副科）	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の音楽①（教育芸術社出版）						
副教材等	イタリア古典歌曲集１、コンコーネ５０番（全音出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業では、高校生の音楽①、イタリア古典歌曲集、コンコーネ５０番、ファイル、筆記用具を持参してください。
・ピアノ専攻生を対象とした声楽のグループレッスンを行います。授業では全体で歌うことばかりではなく、一人一人の発声や声楽の個々の技能・技術を高めるため一人ずつ歌うことも行います。どの専攻の楽器でも求められる《歌うように演奏する》には、まずはフレーズを音楽的に《歌えること》が必須です。ここでの歌う経験は、それぞれの専攻での演奏に生かすことができます。
・１年生では、７月までに発声の基本を学びやすいイタリア古典歌曲、８月から１２月にかけては、イタリア古典歌曲に加えて、ドイツ歌曲も取り扱います。年間を通して、高校生の音楽に掲載されているスタンダードな歌唱曲も学びます。
・声楽と同時に、授業では伴奏法についても学びます。どのように呼吸をすれば演奏者とアンサンブルがうまくできるのか、音楽を共に演奏できるのかについて学びます。
・試験は、年に２回独唱を行う形で実技試験を行います。伴奏は生徒同士で演奏します。

2　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、楽曲の表現内容を積極的に理解し、演奏発表の場では演奏を共有し、互いに評価しあったりする活動に積極的に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素（特に歌詞の内容）や楽曲の背景や曲の造られた時代の特徴を知覚し、それらの動きを感受しながら、音楽表現を表現内容の理解に基づいて工夫し、表現意図を持って創造的に表現している。	音楽理論、ソルフェージュなどの基礎的音楽能力を応用し、創意工夫を生かした音楽表現をするための声楽の発声技術や、歌うためのディクションの技術を身につけ、創造的に表そうと努力する。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値を判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わい、発表の場では互いの演奏や自己の演奏を振り返って言葉によって表現することができる。
評価方法	授業態度（観察）	演奏聴取（実技試験）	演奏聴取（実技試験）	授業態度（観察）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	鑑賞の能力		
4～7	発声の基礎(声作り)学習	①発声の基本を学ぶ ・歌うための姿勢 ・腹式呼吸 ・発声練習 ②コンコーネ50番 1～15番 ③世界の名曲に触れる 《高校生の音楽1より》 この道 サンタルチア 夏の思い出 花の街 わが太陽	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	 ○	a:毎時間の授業において歌う、ピアノ伴奏をするなどの活動を積極的に行う。 b:楽曲の作られた時代や曲のスタイルを理解し、歌詞や時代背景に相応しい奏法で、発声やフレージングなどの表現を工夫して歌うことができる。 c: ➢音高、リズムなど楽譜に書かれたことを正しく読み取り歌う事ができる、 ➢正しいイタリア語や日本語・ドイツ語の発音で歌うことができる。 ➢曲種や詩の内容に応じた発声で表現し歌う事ができる。 d:発表の場で他者の演奏や自分の録画・録音を聴いた時、音楽の要素ごとに分析して感想を述べたり、よりよい表現のための方法を言葉によって表すことができる。	観察 演奏聴取
9～12	イタリア語の発音	④イタリア古典歌曲を歌う Caro mio ben Star vicino Nel cor piu non mi sento Caro laccio Sebben crudele Nina	○	○	○	○		授業観察 演奏聴取 ワークシート
1～3	曲種に応じた音楽と音楽表現・歌と伴奏のアンサンブル	⑤ドイツ歌曲を歌う Ich liebe dich An die Musik 野ばら (シューベルト・ウェルナー) 春への憧れ 五月の歌 美しき五月に ウィーンわが夢の街 クリスマスメドレーソング ＊実技試験は7月・2月に行う。 ＊歌は上記を基本とし、グループの進度に合わせて随時適したものを取り扱う。	○	○	○	○		授業観察 演奏聴取